

新梢におけるリンゴ苦土欠乏症の発生葉位

研究のねらい

新梢の場合、苦土欠乏症は葉齢の最も古い基部葉から発生するとされてきた。しかし、基部葉より上位の新梢葉に苦土欠乏症と全く同じ症状が発生している事例もある。そこで、これらの症状が苦土欠乏症であるか否かを明らかにし、診断の精度を高める。

研究の成果

ふじの新梢に苦土欠乏症と同じ症状、すなわち、葉のクロロシス及びネクロシス、落葉が発生した。しかし、症状が発生した最下位の葉位は基部葉から数えて3～6枚目であり、それより下位の葉には症状がみられなかった。この症状は日を経るにつれて激しくなり、発生部位は新梢頂部の方向に進行した。しかし、この発病樹に硫酸マグネシウムを葉面散布したところ、散布後の新たな発生はみられなくなった。以上の結果から、本症状は苦土欠乏症であると判定した。

これまで苦土欠乏症の診断は、発生が花葉そう葉や新梢基部葉から始まることを根拠の一つとしてきた。しかし、苦土欠乏症は基部葉より上位の葉から発生することもあるので、発生葉位にこだわらず、葉の症状及び症状の進行状況から診断する必要がある。



苦土欠乏症（新梢葉、ふじ）



苦土欠乏症による落葉

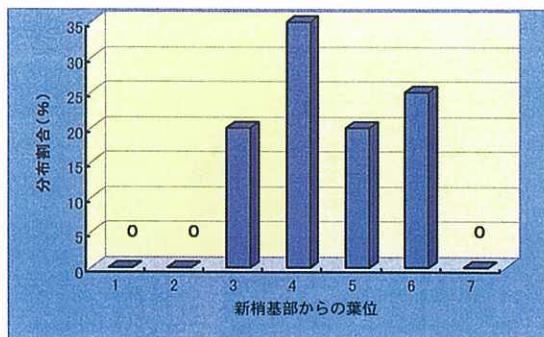


苦土欠乏症（9月24日撮影、ふじ）

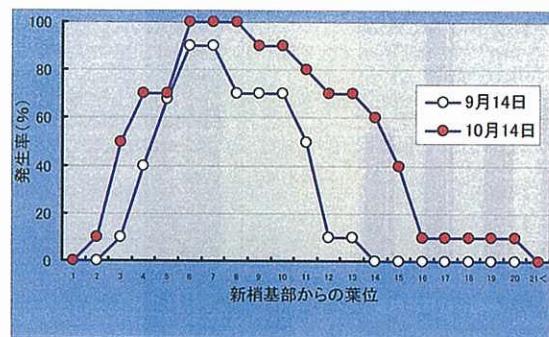


苦土欠乏症（同左写真の20日後撮影）

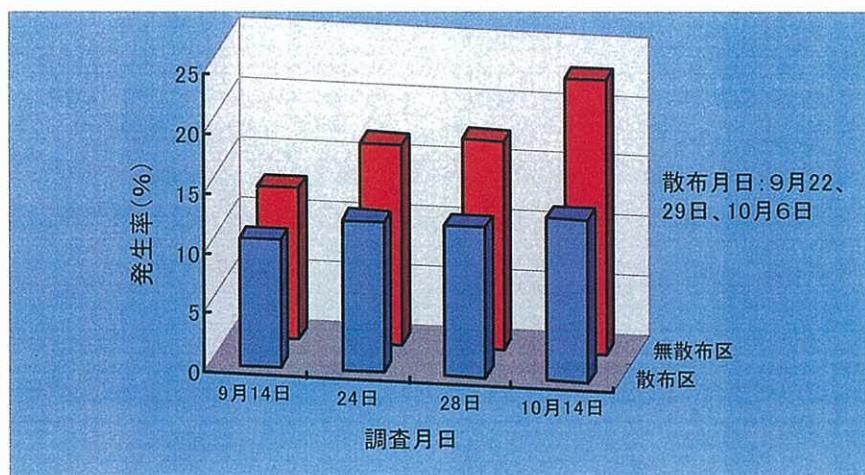
主要な試験データ



第1図 症状が発生した葉位



第2図 葉位別発生率の推移



第3図 硫酸マグネシウム葉面散布と苦土欠乏症様発生推移

発表資料

病虫肥料部 (2000). りんご苦土欠乏症の新しい症状. 平成12年度指導奨励事項・指導参考資料等: 94-95.